

The University Times

May 2012 Vol. 20

<http://jtimes.jp/utimes>

produced by IELTS by STEP × The Japan Times ©THE JAPAN TIMES, LTD. 2012

CONTENTS

■ Visit a Global Company : グローバル企業訪問
東京エレクトロン株式会社 ①②

■ Journalist's Eye : 英字新聞記者の視点
「ステマ」 / 「スプリング・ビー」 ③

■ English for Careers : 就活英語を学ぼう
英文 Eメールの書き方④ ④

■ Shu-katsu Counseling : 就活の不安を解消しよう
面接のポイント ⑤

■ University's Challenge : 国際交流に取り組む大学
大学の国際化をリードする慶應義塾大学 ⑥

■ IELTS
リーディングテストのコツ ⑦

■ News in English
英文記事を読んでみよう ⑧

Visit a Global Company : グローバル企業訪問

世界を席巻する 日本発の最先端テクノロジー

Vol. 10

東京エレクトロン株式会社 東京エレクトロン

半導体製造装置、FPD 製造装置、太陽電池製造装置と、われわれの生活を豊かにする社会的貢献度の高い事業を展開する東京エレクトロン。同社では若手に多くチャンスが与えられるなど、社員一人ひとりの情熱を大切にしている。

パソコン、携帯電話、家電製品、デジタルカメラ…。私たちの生活のあらゆる場面で利用されているこれら製品には、半導体 (IC チップ) と呼ばれる電子部品が組み込まれている。その半導体の技術革新を支えているのが、半

導体製造装置のリーディングカンパニー、東京エレクトロンだ。

1963年に半導体関連機器を扱う専門商社として誕生した同社。しかし、技術革新の早い半導体業界では、輸入した装置を販売

するだけではそのスピードに追いつくことができない。半導体の開発スピードの先を行く装置を自社開発する必要がある。こうして半導体製造装置の国内生産をスタートさせた東京エレクトロンは、以来、製造装置メーカーとしての地位を確固たるものにしてきた。「半導体製造装置の分野で蓄積した技術を活用した FPD (フラットパネルディスプレイ) の製造装置も手掛けており、世界トップクラスのシェアを獲得しています。近年では、環境問題やエネルギー問題への関心が高まる中、技術で環境問題に取り組むという信念のもと、太陽電池製造装置事業を新たなビジネスの柱にするべく強化しています」

人事部スタッフィンググループの宮島剛さんは、同社の主要事業について詳しく説明してくれた。同社では、1990年代半ばより行ってきた、サービス・セールス拠点の世界的インフラづくりや、研究開発拠点の海外展開などのグローバル戦略が実を結び、現在では売上高の7割以上を海外が占めるグローバル企業グループへと成長した。このような状況もあり、日々の業務で英語を使う機会は増えている。こうした舞台で必要となってくるのは、グローバルな視点で仕事を捉えられる行動力のある人材なのだという。

「海外留学生や外国人留学生の採用を積極的に行っています。もちろん日本の大学に通



人事部スタッフィンググループ主任の宮島さん

う日本人でもグローバルマインドを持っている人は大歓迎です。さまざまなバックグラウンドを持つ人を採用したいと考えているため、専攻も国籍も問いません。新卒採用では書類選考は行わず、実際に会って面接で評価します。現時点では高い語学力がなくても問題はありません。外国語に臆せず積極的にコミュニケーションをとり、語学力を高めることと同時に異なる文化や風習を受け入れられるバイタリティーと柔軟性あふれる人を望んでいます。さまざまなバックグラウンドや個性を持った人たちが半導体、FPD、太陽電池の技術革新を起すだけでなく、培った技術力で新規事業を生みだしていきたいと考えています」

自主性、チャレンジ精神を求む

東京エレクトロンは2012年11月、創立50年を迎える。「理想の会社を創りたい」と設立した創業者のベンチャースピリットは、現在も企業文化にしっかりと受け継がれている。「そのカルチャーは、第一に、変化のスピードの激しい半導体業界の中で、それを好んで受け入れ、新しいことにどんどん挑戦していくチャレンジ精神。第二は、自ら考え失敗したとしても、そこから学んで成果を生み出す力。第三は、粘り強さ。自分の軸、芯を強く持った上で、やり遂げることができる力。そして最後は、いわゆる個性です。他人とは違う『オンリーワン』を持ち、また会いたくなると相手に思ってもらえる魅力ある人間。こういった思い、力や魅力を持つ学生さんとたくさん出会いたいですね」

同社では前述の通り、語学力は入社時の必須要件ではない。その代わりに、入社後には継続的な学習の機会を提供するため、社員や組織の能力向上を目的とする社内教育機関「TEL UNIVERSITY」を設置している。

「主体性や自主性を尊重する当社の文化は、教育制度にも現れています。その一つが『英



半導体製造装置(写真)や FPD 製造装置の世界市場で高いシェアを誇る

Visit a Global Company

グローバル企業訪問

語自主勉強会』。これは気の合う仲間同士で勉強チームを作り、学習計画から目標管理まで社員の自主性に委ねて、英語の上達を目指す取り組みです。会社は教材費などのサポートこそ行いますが、基本的には自らが動いて学習していくというスタイルです。これは業務においても同様です」

同社では昨年、学生向けのキャリア支援講座を開催した。講師を務めたという宮島さんから、最後に就職活動中の学生に向けて、

仕事探しのポイントを語っていただいた。

「日本には非1次産業では430万以上の会社・法人があるといわれています。自分を生かせる会社は其中に必ずあるはず。就職支援サイトに掲載されている会社はほんの一部なのです。日常生活で接することの多いB to C企業や大企業に目がいきがちですが、自分がやりたいことは何か、何にやりがいを持てるか、自身の仕事に対する動機とその動機を実現する条件を整理して、就職に対す

る軸・価値観をしっかりと自己分析したうえで、会社探しを行うことが大切だと思います。また、グローバル人材がキーワードとなる昨今の就職活動では、外国人留学生、海外留学生などと同じ土俵で戦う時代です。異文化理解、語学力の点では留学生と比べ見劣りするかもしれませんが、自分の個性や強みをどれだけ学生時代に磨けるか、周囲に流されず自分を生かせる会社を見つけるかを大切に就職活動に臨んで欲しいと思います」

TEL 東京エレクトロン

東京エレクトロン株式会社

半導体製造装置のリーディングサプライヤーとして幅広い製品分野の開発・製造・販売を行っている。半導体製造装置の分野で蓄積した技術を生かして、FPD（フラットパネルディスプレイ）製造装置や太陽電池製造装置も手がける。半導体製造装置およびFPD製造装置の多くは、世界市場で高いシェアを獲得。アメリカ、ヨーロッパ、アジアの計16カ国、93カ所のグローバル拠点網を通して、製品とサービスを提供している。

<http://www.tel.co.jp>

グローバル企業の先輩に聞く！

正確な文法を覚えるよりも 使うことで学んでいくのが一番

緒方 伸也 さん

東京エレクトロン株式会社
PVE 本部 PVE 営業部



2008年入社。2009年2月に締結したスイスのエリコン・ソーラー社との太陽電池製造装置の独占販売代理店契約に伴い、エリコン・ソーラー一部に配属。台湾地区の営業を担当する

Q お仕事内容を教えてください。

A 台湾のお客さま向けに、太陽電池の一貫製造ラインを販売しています。具体的には、販売代理店契約を結んでいたスイスのエリコン・ソーラー社（2012年3月3日付で東京エレクトロンによる買収を発表）と台湾企業との間に入り、契約のサポートや調整を行っています。2009年に発足したばかりの比較的新しい部署ですが、当社の第3の柱である太陽電池製造装置の事業を任せられており、非常にやりがいを感じています。

Q 1週間のスケジュールは？

A 月曜日に先週の報告と今週のタスクを各営業担当者とマネジメントに説明・共有し、それが終わるとすぐ支社の東京エレクトロン台湾に向かいます。現地では、新設や増産の提案、ヒアリングや商談を行い、週末にまた帰国します。台湾には専属の営業担当者が2名いるのですが、うち1名は日本語がまったくないので、コミュニケーションはすべて英語で行っています。エリコン・ソーラー社とのやり取りも基本的には英語です。

Q 英語はかなり得意なんでしょうか？

A 高校生のとき、アメリカのオレゴン州に1年半ほど留学していました。しかし、今から10年も前のことで、帰国してからはほとんど英語を使う機会もなく、かなり忘れていたのです。4年前に海外業務に就いたことで、再び英語を使う機会ができたので、高校生の頃以上に勉強しなければと、実務を通じて必死に習得に努めているところです。

Q 入社を希望された理由は？

A 工学部だったのですが、研究室で黙々と作業するよりも、外に出て人と出会ったり話したりすることが好きだったのです。そのような仕事を探しているうちに、東京エレクトロンでは技術的な営業担当者が数多く活躍していることを知り、現在に至っています。また、海外にいるたくさんのお客さまと仕事をする中で、いろいろな文化に触れて刺激を受けたいと考えていました。当社は海外シェアが高いので、それも入社を希望した理由の一つです。

Q 海外とのビジネスで大変なところは？

A 最初は、日本との商習慣の違いや海外特有のビジネスライクな面に戸惑いました。一般的に、日本よりも海外のお客さまの方が要求は厳しいです。それでもなかなか折り合いがつかず、思うようにいかないことが多いですね。しかし、エリコン・ソーラー社と台湾企業双方が納得のいくような調整ができて、お客さまから感謝の言葉をいただいたときはやっていて良かったと思いました。また、スイスの時間に合わせて電話会議を行う場合、向こうの始業時間は日本では夕方4時になるので、自宅に帰って会議に参加することがあります。そういったグローバルならではの苦労があることを、海外との仕事を始めてから知りました。

Q 英語習得法を教えてください。

A 英語を勉強したというよりも、留学先で生きていくために、分からないなりに外国人に話しかけていました。そうすると、徐々に言っていることが耳に入ってきて、フレーズや単語、付き合い方や距離感を覚えることができました。今回、忘れていた英語を再び修得できたのも、英語の業務メールを何度も繰り返し読んでいたことで、留学時と同じ感覚で吸収できたからだと思います。英語をマスターするには海外に行くのが手取り早いとは思いますが、そもそも台湾やスイスで使う英語は、日本で教えるような正確な文法は必要ありません。構えずにどんどん使うことで覚えていくのが一番だと思います。



スイスのエリコン・ソーラー社にて、同社担当者と緒方さん(右)

Q 東京エレクトロンの魅力とは何ですか？

A いろいろなことにチャレンジさせ、若いうちから仕事をどんどん任せて成長させようという社風でしょうか。社内ではよく「ONE TEL」という言葉を使いますが、グループの会社間で人事制度、教育制度、福利厚生制度などが統一されているので、その垣根を越えた異動も可能です。私も入社時点から、海外での仕事を希望していましたが、会社は社員一人ひとりを卒にはめることなく、われわれの声にしっかりと耳を傾けてくれます。

Q 学生へのアドバイスをお願いします。

A 私が就職活動をしているときも比較的厳しく、同級生でも大学院に進むか就職するかという選択があったのですが、個人的には学部卒で就職してよかったと思っています。というのも、私と院に進んだ友人とでは、社会人としては2年のキャリアの差あり、やはり社会での2年間というのは、すごく濃密で成長できる時間なのです。そういう意味では、一足早く社会の荒波にもまれて、自分のあるべき姿を模索するというのも非常に重要なことなのかなと考えます。景気の良し悪しはあるものの、就職活動はいつの時代も厳しいものです。どうか乗り越えていってください！

緒方さんのお仕事アイテム



「入社時からずっと愛用しているペンと手帳です。台湾へ行くときもスイスへ行くときも、常に肌身離さず持ち歩いています」

Journalist's Eye

英字新聞記者の視点

日本のニュースを英語で発信しよう！

英字新聞 The Japan Times 記者が語る
日本の「今」を世界に伝えるための心得

—— Vol. 10 by Minoru Matsutani

日本で起こっていることを外国人に伝えるときに必要なのは、英単語の知識や会話力だけではない。物事の背景を理解し、それを外国人にわかりやすく説明するスキルが求められるのだ。このコーナーでは英字新聞 The Japan Times の記者に、記事をより深く理解し、自ら説明できるようになるためのコツを教えてもらう。今回は松谷実記者に「ステルスマーケティング」と、英語のスペルのコンテスト「スペリング・ビー」について伺った。

■好意的なら OK？ お金をもらった口コミ

- Stealth marketing is an attempt to dupe consumers into believing that what they see posted are honest comments from their peers, not paid propaganda disguised as input from ordinary folks.
- ステルスマーケティングとは、お金をもらった宣伝活動と思わせまいよう、一般ユーザーが正直に投稿したコメントであるかのように装った、消費者をだます試みである。

Stealth Marketing (ステルスマーケティング) の stealth は「こっそりとやること」という意味で、ステルスマーケティングとは、消費者に気付かれないように宣伝活動を行うことです。一般には、インターネットを利用したものが多く見られます。例えば、ブログや投稿サイトなどに特定の商品や会社について好意的な書き込みをしてもらい、それに対してお金を払うのです。

最近、「食べログ」というサイトで、「口

コミ代行業者」という存在が不適切な投稿をした疑いのあることが発覚し、ステルスマーケティングがあらためて問題視されるようになりました。

■マクドナルドの行列もステマ？

ステルスマーケティングは、アメリカで生まれたとされています。2006年頃、エデルマンという PR 会社が、アメリカの大手スーパー「ウォルマート」の宣伝をするため、旅行記ブログの書き手にお金を払

■英語のつづりに挑戦！ スペリング・ビーの魅力

- The bee, spelling contest, is intended to promote correct English usage and increase children's vocabularies, has since grown into a prestigious event that receives prime-time media coverage across the U.S.
- スペリング・ビーというコンテストは、英語の正しい用法と子どもの語彙力を促進するために行われ、アメリカ中でゴールデンタイムにテレビ放送されるほどの一大イベントとなっている。

英単語のつづりを正しく言えるかどうかを競うコンテスト、スペリング・ビー (Spelling Bee) の日本予選が、今年の3月に東京で開催されました。本選はアメリカで行われ、世界各地の子どもたちがワシントン DC に集まり、単語の知識を披露します。bee は昆虫の「ハチ」という意味もありますが、その意味はなく、語源は分かっていません。

■単語のつづりを1文字ずつ

単語のつづりを言うコンテストは、アメリカではかなり以前からあったようですが、1925年から「全国スペリング・ビー」が開かれるようになりました。参加する

のは9歳から15歳の子どもたちで、現在はカナダやニュージーランド、韓国、日本、ヨーロッパの国々といった、アメリカ以外の国からも出場しています。

アメリカのように参加者の多い国では、クラス代表、学校代表、地区代表といったように選抜を行い、最終的にアメリカと海外合わせて約300人、ワシントン DC の本選に出場することができます。

会場では、出場者が一人ずつ前に出て、口頭で読み上げられた単語のつづりを、1文字ずつ言っていきます。間違えるとそこで退場となり、勝ち残った人たちが優勝を争います。単語の多くは ignominious (恥ずべき)、veracity (誠



「口コミ」は英語で word-of-mouth

YOSHIKI MIURA PHOTO

い、ウォルマートについて好意的な記事を書いてもらいました。現在は、公正な宣伝方法とはいえないのではないかと非難され、かなり否定的に考えられています。

日本では略して「ステマ」とよく呼ばれます。マクドナルドが2008年に「クォーターバウンダー」という新商品を発売したとき、アルバイトを雇って行列に並ばせ、その行列に実際に並んだ人がその様子をブログに書いたということが問題視されました。

■口コミを処分するのは困難

ステルスマーケティングの大きな特徴は、それを「よくないことである」と決めつけるのが難しいことです。店や商品を誹謗中傷しているのではなく、褒める口コミを書いているので、それで大きな損害を受ける人はいません。

前述の食べログの問題が起こったとき、「景品表示法」に抵触すると指摘する弁護

士もいました。景品表示法は不当表示などを取り締まるための法律で、現実と著しく異なる紹介の仕方などをしていると、この法律を適用することができます。食べログの口コミに関しては、複数の「口コミ代行業者」が飲食店の依頼を受け報酬を得て書き込みをしたことを認めています。それが実際とはかけ離れたものだとすることを証明するのは難しく、今のところは景品表示法でも「処分するのは困難である」とされています。

他国の例を見ると、アメリカでは、連邦取引委員会がガイドラインの改定を行い、ステルスマーケティングの規制に乗り出しています。

インターネットに意図的な情報が流れることは避けられませんが、SNSなどが広まっている現在、口コミを全く信用しないというわけにもいかないでしょう。お店の評価については、消費者自身が判断すべきところもあるかもしれません。

* 参考記事 <http://www.japantimes.co.jp/text/nn20120306i1.html>

実さ)、moratorium (モラトリアム) など、普段あまり目にするのがないものです。出題される可能性がある語を想定した「出題リスト」もありますが、そのリストにない語が出ることも多々あり、出場者たちは普段から必死に単語のつづりを暗記することになるのです。

■語学の知識やセンスも問われる

面白いのは、子どもたちがその単語のつづりを思い出すために、ヒントをもらうことができる点です。例えば、出題者に単語の定義や語源、その語を使った例文などを教えてもらいます。ラテン語やギリシャ語などを語源に持つ単語はつづりに

特徴があるので、そういったところを頼りに完全なつづりを思い出すことができます。単に丸暗記のコンテストではなく、語学の知識やセンスも問われるのです。

日本ではその存在がまだあまり知られていませんが、アメリカでは大変人気があり、ワシントン DC の本選はテレビで生放送されるほどです。日本の予選大会は3年前から開催されるようになり、今のところ、インターナショナルスクールの子どもたちが強いのですが、もちろん一般の学校の子どもたちも出場して健闘しています。YouTubeなどでコンテストの様子を一部見ることができるので、ぜひ一度チェックしてみてください。

* 参考記事 <http://www.japantimes.co.jp/text/nn20120311a4.html>

日本のスペリング・ビーで優勝した12歳の増田春花さん(中央)
YOSHIKI MIURA PHOTO

●今月の記者●

松谷 実さん
MINORU MATSUTANI

2007年入社。捕鯨・イルカ漁問題、外食産業、震災後の原子力事故など、幅広く取材を行っている。

English for Careers

就活英語を学ぼう

第10回

英文 Eメールの書き方④

by 株式会社アイベック スコット・シーリー、植草 良將
Special Thanks: 株式会社コア 秋元 利浩

引き続き、ビジネスで即実践できる英文 Eメールの書き方をご紹介します。最終回の今回は、重要場面で成否を決める、丁寧な謝罪の表現です。

日本語の謝罪文は「申し訳ありません」を繰り返すことが珍しくありませんが、英語のビジネスレターでは、必要以上の謝罪は、かえって卑屈で不快な印象を与えることがあります。始めと終わりに謝り、どんな対応をするかに焦点を絞らしましょう。基本的な構成は次の通りです。

1. 謝罪する
2. 説明する
3. 解決策を述べる
4. 安心させる
5. フォローアップ
6. 再度謝罪する

では、それぞれどんなフレーズが使われているか見ていきましょう。

謝罪する

一般に「I」は自らの過ちを認めるときに、「We」は、会社や部署全体の責任の場合や責任が不明確な場合に用います。

We would like to apologize sincerely for/that ...
…を心よりお詫び申し上げます。

We wish to offer our sincere regrets for/that ...
…を心よりお詫び申し上げます。

Please accept our deepest apologies for/that ...
…を心よりお詫び申し上げます。

for の後は名詞、that の後は S+V です。

説明する

続いて、不手際の理由を説明します。

The reason for this unfortunate incident was ...
この遺憾な出来事の理由は…。

I'm afraid that this problem was due to ...
恐れ入りますが、この問題は…によるものです。

I'm afraid that this problem was due to ...
恐れ入りますが、この問題は…によるものです。

unfortunate や afraid という語で、遺憾の意を示します。

解決策を述べる

相手に関心を持っている「どう問題を解決してくれるのか」を丁寧に述べます。

Considering the circumstances surrounding the delay, we are pleased to ...
その遅延の状況を考慮しまして、…させていただきます。

To make up for this unfortunate error on our part, we intend to ...
私どもの不手際を埋め合わせるため、…します。

We will (be happy to) offer/send you ...
(喜んで) …をご提供/ご送付します。

安心させる

guarantee、promise、completely、absolutely などの力強い単語を使いましょう。

We completely guarantee that ...
…を保証します。

We absolutely promise that we will take immediate steps to ensure that ...
…を確実にするために早急に対策を取ることをお約束いたします。

We will do everything in our power to avoid anything like this in the future.
今後このようなことの再発を避けるため、全力を尽くします。

フォローアップ

次の連絡がいつになるか明記します。

We will contact you shortly.
すぐにご連絡を差し上げます。

再度謝罪する

冒頭とは違う表現で謝罪します。

I would again like to apologize for ...
重ねてお詫び申し上げます。

Once again, please accept our sincere apologies for ...
重ねて心よりお詫び申し上げます。

Please let me apologize once more for the difficulties this situation caused.
この状況による問題に関して、重ねてお詫び申し上げます。

《英文 Eメールの具体例》

Dear Mr. Moriya,

We are sorry that **we have not been able to deliver your scheduled order** MBK-7676-7PX from Japan.

This unexpected and unfortunate shipping delay occurred due to the dockworkers' strike in New York, which prevented the unloading of the vessel.

I expect that the strike will be over soon, and we guarantee that we will be able to deliver your shipment by the end of March.

Our shipping division will analyze other freight options for your future orders. **I should have details very shortly, and I will call you then.**

Please let me apologize once more for the difficulties this situation caused. **I promise to notify you as soon as the strike is over.**

Sincerely,
Yoshihiko Ozawa
Director
Core Competence Company, Inc.

● 重要なポイントを押さえておきましょう ●

we have not been able to deliver your scheduled order
「予定されていたご注文を発送できません」

This unexpected and unfortunate shipping delay occurred due to ...
「予想外で遺憾なこの発送遅延が起こったのは…のためです」

I expect that the strike will be over soon
ストライキがもうすぐ終わりそうだと述べ、相手の懸念を沈めます。

I should have details very shortly, and I will call you then.
「まもなく詳細が判明いたしますので、その時お電話差し上げます」

I promise to notify you as soon as the strike is over.
「ストライキが終わり次第ご連絡することをお約束します」

いかがでしたか？ この連載を生かして、読者の皆さまが自信を持って Eメールを書けるようになってくだされば幸いです。ありがとうございました。

PROFILE

スコット・シーリー (Scott Seeley)
コーネル大学 (ニューヨーク) で修士号 (心理学) と学士号 (生物学) を取得。英語学校マネージャーを経て、株式会社アイベック講師ビジネスライティングトレーニングマネージャー兼採用担当マネージャー。日本語と英語のバイリンガル。多数の企業より指名を受け活躍中。



植草 良將 (Yoshimasa Uekusa)
東大文学部卒業。東大大学院人文社会学系研究科修士課程修了。専攻は言語学。英文 Eメールライティングなどの学習指導・教材開発を手がける。実用英語技能検定 1 級。趣味はヴェータとサンスクリット語。修士論文のテーマはインド・スリランカのタミル語。



世界基準のビジネス英語能力テスト

BULATS

The Business Language Testing Service

世界約47カ国1,172団体、
日本でもすでに350以上の企業・団体が採用

詳細は www.eiken.or.jp/bulats

お問い合わせ tel 03-3266-6366
mail stepbulats@eiken.or.jp

世界と繋がるために

Are you sure your message is getting through?

BULATS

Fast, reliable,
and global



Shu-katsu Counseling

就活の不安を解消しよう

ブンナビ編集長の就活相談ABC

文化放送キャリアパートナーズ 玉造 剛

昨年5月から始まったこのコーナーもいよいよ最終回となりました。1年間お付き合いいただいた読者の皆さまには心から御礼申し上げます。最後はいろいろと悩みの多い面接についてです。面接はこれまで行ってきた就職活動のいわば集大成。磨きあげてきた自己PRや志望動機をぶつけて、内定をつかみ取りましょう！ みなさまのご多幸をお祈りします。

最終回

【今月の質問】

どうしても面接が突破できません。どうしたらいいのでしょうか？

企業の採用基準は決まっている！

学力テスト以外で他人から評価されることに慣れていない学生の皆さんにとって、面接というのは合否の基準が非常に不明瞭に感じられるかもしれません。毎年多くの学生が苦戦していますが、面接が突破できない原因は必ずしも一つではありません。今回の相談者の抱える事情や状況は分かりませんが、私の考える面接で苦戦してしまう学生の特徴や、つまりやすいポイントについてお話しします。

まずその前に、企業が求める人材像についておさらいしていきましょう。毎年、文化放送キャリアパートナーズでは、上場企業を中心に採用担当者に向けたアンケートを実施しています。その中の一つ、「内定した学生についての感想」という設問を見ると、上位から「コミュニケーション力がある」「行動力が

ある」「誠実で堅実さがある」「協調性がある」「地アタマがよい」と続きます。これらが「優秀」と判断するポイント、企業の求める人材要件ということならば、自分がこうした特徴を持った学生であることを、第一印象や自己PR、志望動機を通じて、企業側に伝えることこそが面接における最終目標となります。ここを前提に話を進めていきましょう。

面接には自然体で臨むべし

まずは第一印象について。これはどんな就活本にも必ず言及されている部分ですね。代表的なNGパターンとしては、「緊張しすぎてしまう」「マニュアル対応になってしまう」などが挙げられます。

面接では、大なり小なり誰もが緊張するものですが、度を越した緊張は「自分に自信がない」「立場の違う人間とコミュニケーションでき

ない」「人生経験が足りない」など、さまざまなネガティブ評価につながってしまうので注意が必要です。とはいえ、数をこなすことである程度は慣れていくものですし、企業側も緊張しているという理由だけで最終的な評価を下すことはないで、それほど心配はいりません。それよりも自分を有能に見せようとするあまり、失敗できないという思いから、余計に緊張してしまうことの方が問題です。そうではなく、面接では「素直さ」や「誠実さ」を評価してもらおうと考えてください。そうすれば多少失敗しても、動揺することもなくなります。面接は誠実に自然体で臨んだ方が、プラスにつながる方が多いのです。

一方で、マニュアル対応だけになってしまう人は要注意です。というのも、聞かれた質問にそつなく答えることができたりすると、自分ではうまくできたつもりなので、不合格になってもその理由が分からないのです。結果、いつまでたっても面接のコツがつかめないまま、一向に良い結果が出ません。

面接は事前に用意した回答を発表する場ではありません。ましてや、本来の自分をマニュアルで覆い隠しているような人に企業は見向きもしません。例えば、就活本に「面接は笑顔で！」と書かれていたとします。しかしあなたは、本当に笑顔が似合うタイプでしょうか？ 作り笑いよりも、真剣で誠実な表情のほうがあなたらしさを表現できるのではないですか？ 本心から出ている挙動や表情、言葉では、面接官はしらけてしまいます。怖いかもかもしれませんが、最低限のマナーだけを守るようにして、それ以外は自然体で面接に臨んでみてください。その方が評価はずっと高くなるはずですよ。

新卒採用における第一印象は大変重要です。特に一次面接などは与えられる時間が短く、第一印象の評価が低いと、時間内に挽回することはできません。コミュニケーション力や行動力があって、誠実で協調性のある頭のいい学生は、面接でどのように振る舞うでしょうか？ そのたたくまいや表情、発声、目線

などをイメージしてみてください。きっとマニュアル対応なんてしませんよね。

最後に内定を決めるのは熱意と覚悟

ここまではどちらかというと比較的序盤でつまずいてしまう人の例でしたが、三次面接以降や最終面接をどうしても突破できない、後半に弱いタイプの学生が毎年必ずいます。彼らに足りないものは何でしょう？ 一般的に、一次面接では第一印象を中心とした基礎的な項目を、二次面接では学生時代の経験を通じて能力や適性をチェックします。そして、最終面接が近づくにつれ、より企業が重視するのが「熱意」と「覚悟」です。

それはどういうことなのか、採用担当者の仕事を考えてみると分かります。彼らは企業の魅力を発信し、多くの学生を集め、選考活動を通じて自社への適性を持った優秀な学生をセレクトするのが仕事です。しかし、担当者自身では内定を出す権限は持っておらず、それを決めるのはあくまでも最終面接官である経営陣たち。つまり、最終面接の手前までが採用担当者の仕事なのです。では採用担当者が、優秀ではあるけれども熱意も覚悟もない学生を最終面接に進ませたらどうなるか。当然、経営者からは「入社意思のない人間を最終面接に通すな！」と言われることとなります。だからこそ、最終面接に近づけば近づくほど熱意と覚悟が求められるのです。

では、熱意と覚悟はどこで判断されるのでしょうか。言うまでもなくそれは志望動機です。後半に弱い学生は、能力や適性に問題はないのですが総じて志望動機が弱いのです。志望動機の説得力が、一気に内定まで突破する原動力となります。それには正しい仕事理解のもと、望む仕事と自分の優先する価値観とが合致していることが大切です。熱意と覚悟を相手に伝えられる志望動機に仕上がっているかどうか。自分の志望動機をいま一度確認してみてください。

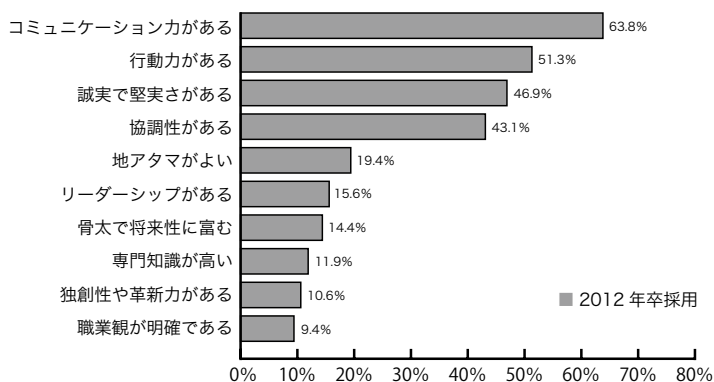


PROFILE

玉造 剛
ブンナビ編集長。採用コンサルタントとして、採用計画立案から面接官のトレーニングまで、数多くの企業の新卒採用にもかかわる。
ブンナビ
<http://bunnabi.jp/>

■内定学生についての感想

今年、内定した学生についての感想は、どのようなものですか。評価できる項目を最大3つ選択してください。



ジャパントイムズの本

最新号

新刊

★時事英語学習書の決定版!!

The Japan Times 社説集

2011年下半期 7月▶12月

2011年7月-12月のジャパントイムズ紙から重要テーマを論じた社説を注釈・和訳付きで厳選収録。

CD1枚付き
ジャパントイムズ編
定価1,680円(税込)



The Japan Times NEWS DIGEST

CD1枚付き
ジャパントイムズ編
定価1,050円(税込)

Vol. 35 2012.3

●巻頭特集

ダルビッシュの交渉権、テキサスが獲得

その他の収録記事

- 日本政府、「冷温停止」を宣言
- 金正恩が「最高指導者」に
- ユーロ圏の救済基金も格下げ など18本

(予約購読) <https://club.japantimes.co.jp/subscriptions/new/nd/>

University's Challenge

国際交流に取り組む大学

創立当初から世界に目を向けた
質の高い教育の場

慶應義塾大学

慶應義塾は創立者である福澤諭吉の何よりも「学問」を大切にする志に基づき、長きにわたり日本の大学の国際化をリードしてきた大学だ。慶應義塾常任理事(国際担当)の阿川尚之教授に、留学生の送り出しや受け入れなど、慶應義塾の国際化の現状について伺った。

福澤諭吉の思いを受け継いで

江戸時代に蘭学を学んだ福澤諭吉は、故郷の中津藩の命を受け、江戸で小さな蘭学塾を開いた。これが慶應義塾の始まりである。福澤は3度にわたる欧米渡航を通じて「日本の近代化には欧米の学問体系を導入した新しい教育が必要」だと痛感したという。その国際化の歴史は古く、1881年には日本で初めて留学生を受け入れている。朝鮮政府が派遣した紳士遊覧団が視察を終えた後、2名が慶應義塾に入学したのである。1890年に文学・理財・法律の3科からなる大学部を発足させると、ハーバード大学から3名の主任教師を招聘した他、教授陣の多くに外国人教師がいた。さらに1899年には、慶應義塾卒の教授を育てるため、卒業生数名を欧米の大学へ留学させ、いち早く海外留学生派遣制度を整えた。慶應義塾は創立当初から「世界に目を向けた」大学であったのだ。

現在、慶應義塾における国際交流の拠点となっているのは「国際センター」だ。「国際センター」は1964年に全国に先駆けて設立され、海外大学との交換留学制度の運営、春季・夏季の短期研修プログラム、さまざまなテーマについて英語で授業を行う国際センター講座、別科・日本語研修課程などで日本語教育を行う日本語・日本文化教育センターとも連携し、受け入れ留学生の生活支援、留学フェアの開催などを行っている。

自分の頭で考えられる学生を育てる

阿川尚之常任理事は自身の留学経験も踏まえ、次のように語った。「慶應義塾の国際交流の歴史は古く、私自身も慶應義塾在学中に、高校時代はハワイへ、大学時代にはアメリカへ留学の機会を得まし



国際連携推進室長の阿川尚之常任理事

た。当時は提携校も少なく、限られた学生・研究者だけに機会を与えられているものですが、ここ7年ほどは特に国際化を意識して、より多くの学生・研究者が海外へ出て行ける機会を増やしています。現在、100を超える世界の大学と協定を結び、交換留学の制度を整えていますが、留学希望者数の方が多く、必ずしも全員がこの制度を通じての留学ができるとは限りませんので、さらに機会を広げていきたいと考えています。できるだけ若いうちに海外に出て、新鮮な感覚で世界を見ておくことは、その後の人生に大きな意味をもたらすと、私自身の経験からも感じます」

慶應義塾の国際交流の特色は質を重視することである。約250の大学・高等教育機関との提携という数は確かに多い。1年間の交換留学制度の他、国際センターが担当する短期海外研修プログラムや学部主催プログラムも用意され、英米に限らず、ヨーロッパやアジア各国へと扉は開かれている。そうした「数」の多さだけではなく、提携先の大学の教育の「質」の高さを保証できるのは、世界の大学が慶應義塾の教育に寄せる期待の高さを表していると言えるだろう。

「学生と接していると、熱心に学ぼうとする意欲的な学生が多く、なかには驚くほど『できる』と感じる学生もいます。学内で開催する国際的に活躍する方々の特別講演会でも、堂々と意味のある質問を投げかけられる学生が多いと評価されています。そうしたやる気のある学生を集中的に学ばせ、海外へ送り出していきたいものです。自分の頭で考えられる学生を手間暇かけて育て、社会へ送り出したいのです。それが大学に与えられた社会的使命ではないでしょうか」

幅広い学びの選択肢が魅力

世界に開かれた大学ということもあり、慶應義塾で学びたいと希望してくる留学生も多い。学部・研究科を含めた留学生数は1,103名(2011年5月1日現在)であり、特に韓国や中国からの留学生が半数を占めている。10学部14研究科、30以上の研究所、日本有数の蔵書数を誇る大学図書館、大学病院などを擁する総合大学である慶應義塾には幅広い学びへの選択肢が用意されていることも、留学先としての魅力に映るのだろう。

現在、慶應義塾には学部・研究科にそれぞれ英語のみで学位を取得できるプロ



1・2年生を中心とした日吉キャンパスでは留学フェアを実施している

グラムが用意され、語学を除く英語による授業が約200ある。英語による講義を通して、留学生により良い環境を提供している。また、各研究科にはドイツやフランス、スウェーデン、韓国、中国など海外の協定大学と慶應義塾の両方の修士号を修得できるダブルディグリープログラムも開設し、国際社会で活躍するリーダーの育成をめざしている。さらに、留学生のための別科・日本語研修課程は日本語教育の質の高さへの定評がある。

「留学生を見てみると、日本文化や社会へのあこがれが強く、日本という国への興味は薄れていないのだと感じます。そして、慶應義塾の学生と共に学び、交流を深めながら、充実した留学生活を送っているようです。日本語・日本文化教育センターの先生方も非常に熱心で丁寧に留学生に指導し、日本語と英語の両面で留学生の学びを支えています。今後も日本へ留学する意味のあるプログラムを増やしていきたいと考えています」

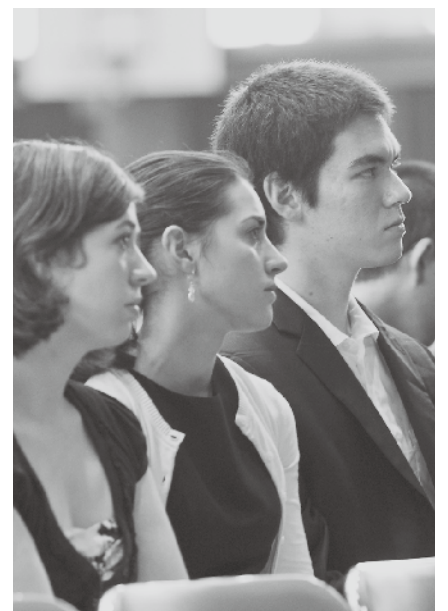
社会のリーダーを育てるために

昨今は大学の国際化を意識した「9月入学」の話題が世間をにぎわしている。慶應義塾ではすでに9月入学を実施しているため、その実績を踏まえて今後の方針を検討すること。阿川常任理事に「国際化」について尋ねると、次のような答えが返ってきた。

「世界を見わたしても、日本語で学べる大学は日本にしかありません。そのため、日本の大学はその独占的な現状に甘え、世界の大学との競争意識を持つことはこれまであまりありませんでした。今後もすべての日本の大学が英語で授業を行うといった本格的国際化を進めることはない

と思います。ただし、日本の学生のトップ5%にあたるような人たちは、今後、世界中の学生、中でも中国や韓国などアジアのトップの学生たちと肩を並べ、競争していかなければならない時代に入っているでしょう。そこで、私どもは日本人の優れた学生を国際舞台でも十分活躍できるように、いかに育てていくかということを念頭に置いて教育を行っていかねばなりません。私立大学は研究の比重が高い国立大学と存在意義が違い、研究のみならず、教育の質を高め、国内外の社会に貢献していく使命があるのです」

日本の大学の国際化をリードし続けてきた慶應義塾。学びへの意欲の高い学生たちをさらに伸ばすための質の高い教育と世界に開かれた環境は、個々の学生たちの将来の可能性を広げ、国際社会のリーダーとなるべき人材が数多くこの大学から羽ばたいている。



9月入学式にはさまざまな国籍の学生が参加する

慶應義塾大学

福澤諭吉を創立者とし、現在は東京・神奈川を中心に6つのキャンパスを持つ総合大学。建学以来の実学の精神のもとで、10学部14研究科と通信教育課程、別科・日本語研修課程で特色ある教育・研究活動を進めている。学部・研究科の学生総数は約3万4,000人。うち留学生総数は1,103名。

IELTS

テストのコツ

ブリティッシュ・カウンシルに聞く

IELTS テストのコツ

by Philip Patrick (フィリップ・パトリック)

IELTS のテストについて4回にわたって紹介している本連載。ラストの今回は、リーディングテストのコツについてご紹介します。

サンプル問題

The Risks of Cigarette Smoke

Discovered in the early 1800s and named 'nicotianine', the oily essence now called nicotine is the main active ingredient of tobacco. Nicotine, however, is only a small component of cigarette smoke, which contains more than 4,700 chemical compounds, including 43 cancer-causing substances. In recent times, scientific research has been providing evidence that years of cigarette smoking vastly increases the risk of developing fatal medical conditions.

In addition to being responsible for more than 85 per cent of lung cancers, smoking is associated with cancers of, amongst others, the mouth, stomach and kidneys, and is thought to cause about 14 per cent of leukemia and cervical cancers. In 1990, smoking caused more than 84,000 deaths, mainly resulting from such problems as pneumonia, bronchitis and influenza. Smoking, it is believed, is responsible for 30 per cent of all deaths from cancer and clearly represents the most important preventable cause of cancer in countries like the United States today.

Passive smoking, the breathing in of the side-stream smoke from the burning of tobacco between puffs or of the smoke exhaled by a smoker, also causes a serious health risk. A report published in 1992 by the US Environmental Protection Agency (EPA) emphasized the health dangers, especially from side-stream smoke. This type of smoke contains more smaller particles and is therefore more likely to be deposited deep in the lungs. On the basis of this report, the EPA has classified environmental tobacco smoke in the highest risk category for causing cancer.

As an illustration of the health risks, in the case of a married couple where one partner is a smoker and one a non-smoker, the latter is believed to have a 30 per cent higher risk of death from heart disease because of passive smoking. The risk of lung cancer also increases over the years of exposure and the figure jumps to 80 per cent if the spouse has been smoking four packs a day for 20 years. It has been calculated that 17 per cent of cases of lung cancer can be attributed to high levels of exposure to second-hand tobacco smoke during childhood and adolescence.

A more recent study by researchers at the University of California at San Francisco (UCSF) has shown that second-hand cigarette smoke does more harm to non-smokers than to smokers. Leaving aside the philosophical question of whether anyone should have to breathe someone else's cigarette smoke, the report suggests that the smoke experienced by many people in their daily lives is enough to produce substantial adverse effects on a person's heart and lungs.

The report, published in the Journal of the American Medical Association (AMA), was based on the researchers' own earlier research but also includes a review of studies over the past few years. The American Medical Association represents about half of all US doctors and is a strong opponent of smoking. The study suggests that people who smoke cigarettes are continually damaging their cardiovascular system, which adapts in order to compensate for the effects of smoking. It further states that people who do not smoke do not have the benefit of their system adapting to the smoke inhalation. Consequently, the effects of passive smoking are far greater on non-smokers than on smokers.

This report emphasizes that cancer is not caused by a single element in cigarette smoke; harmful effects to health are caused by many components. Carbon monoxide, for example, competes with oxygen in red blood cells and interferes with the blood's ability to deliver life-giving oxygen to the heart. Nicotine and other toxins in cigarette smoke activate small blood cells called platelets, which increases the likelihood of blood clots, thereby affecting blood circulation throughout the body.

The researchers criticize the practice of some scientific consultants who work with the tobacco industry for assuming that cigarette smoke has the same impact on smokers as it does on non-smokers. They argue that those scientists are underestimating the damage done by passive smoking and, in support of their recent findings, cite some previous research which points to passive smoking as the cause for between 30,000 and 60,000 deaths from heart attacks each year in the United States. This means that passive smoking is the third most preventable cause of death after active smoking and alcohol-related diseases.

The study argues that the type of action needed against passive smoking should be similar to that being taken against illegal drugs and AIDS (SIDA). The UCSF researchers maintain that the simplest and most cost-effective action is to establish smoke-free work places, schools and public places.

Questions 4-7

Do the following statements reflect the claims of the writer in the reading passage?

In boxes 4-7 on your answer sheet write

YES if the statement reflects the claims of the writer
NO if the statement contradicts the claims of the writer
NOT GIVEN if it is impossible to say what the writer thinks about this

- 4 Thirty per cent of deaths in the United States are caused by smoking-related diseases.
 5 If one partner in a marriage smokes, the other is likely to take up smoking.
 6 Teenagers whose parents smoke are at risk of getting lung cancer at some time during their lives.
 7 Opponents of smoking financed the UCSF study.

Answers: 4 NO 5 NOT GIVEN 6 YES 7 NOT GIVEN

時間を有効に使う

リーディングテストには、情報を探し出す問題、主題を見つける問題、文章に適した見出しをつける問題、正誤問題などさまざまな出題形式があります。難しい問題もありますが、簡単なテクニックを知っているだけで、正答の可能性をアップさせることができます。

多くの受験者にとってリーディングテストは時間との戦いです。出題されるテキストは900ワードに達するものもあり、ネイティブでない人にとってはちょっとした挑戦と言えます。このような長文問題では、単語を一つひとつ理解しようとするのではなく、単語をまとまりごとに読んでいくことで、読解スピードを上げましょう。ネイティブの読解スピードが非ネイティブより圧倒的に速いのは、いくつかの単語をまとまりとして認識し、理解しているからです。ネイティブ同様、単語のまとまりを一つの単語と同じ速さで認識できるようになれば、テキストをずっと速く読み進めていくことが可能になります。そうすれば、問題を解くことにより多くの時間を使うことができるようになるでしょう。さらには、こうした単語のまとまりがいずれあなたのボキャブラリーとなり、他のテストでも活用できるようになるのです。

もう一つの方法としては、それぞれの段落の要旨を述べた主題文のみ集中して読解する方法があります。例えば、段落に見出しをつけるタイプの問題では、答えは多くの場合、各段落の主題文の中にあり、その主題文は各段落の最初の文章であることが多いのです。この戦略を使えば、テキスト全体を読まなくても、多くの問題を解くことができるでしょう。これは大きな時間節約になります。

視点を変える

与えられた文章が TRUE か FALSE か NOT GIVEN かを判断する IELTS 特有の問題も、難しい問題の一つです。特に NOT GIVEN は、出題文の中にない可能性がある情報を判断しなくてはいけないので、非常に難しい問題です。しかし、難しさを軽減させるコツもあります。それは出題文を疑問形に置き換えてみることです。例えば、Question 1: Women from Hokkaido are the

strongest in Japan.

この文を疑問形にしてみましょう。Are women from Hokkaido the strongest in Japan? となります。いかがでしょうか。疑問文にすることで、その答えを文章の中から探しやすくなりませんか？ ちょっとした工夫で、楽に解答を導き出せるようになります。

品詞を推測する

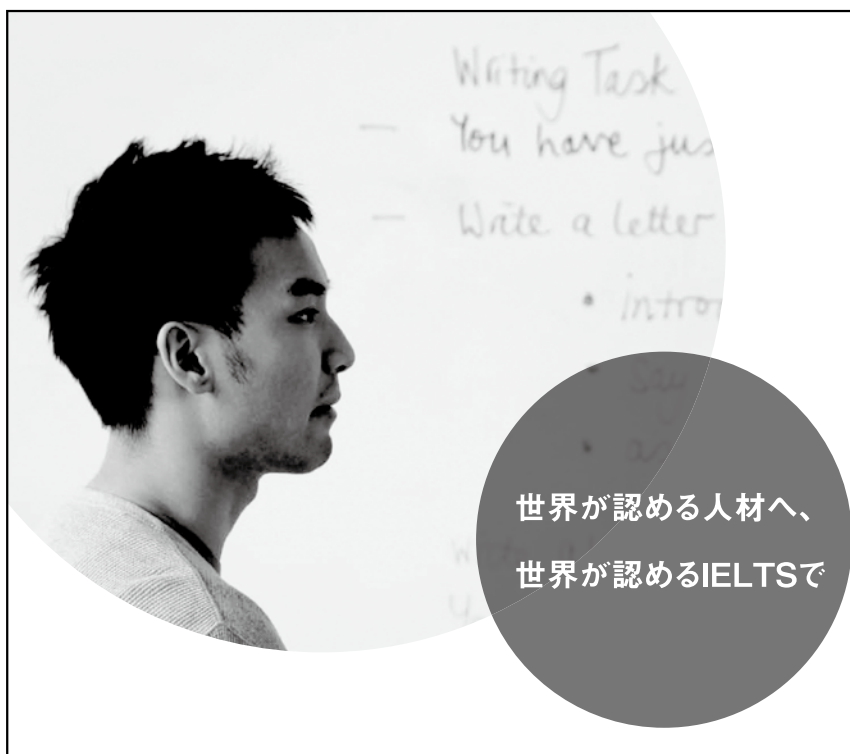
また、出題文を要約した文章の穴埋め問題も難問です。この問題で厄介な点は、出題文に登場せず、受験者にとって未知の単語が選択肢に含まれている可能性があることです。このような問題では、穴の開いた文章をよく読み、どの品詞が入るのかを推測しましょう。要約文の解釈に自信がなくても選択肢の中の単語を絞り込むことができます。

The first World Cup was _____ in 1930. Only a small number of _____ made the journey to Uruguay to enter the _____, some making a long boat _____ to do so.

まず、最初の文章で気付くのは動詞が欠けているということです。また、「was」から動詞が過去分詞形になることも推測できます。次の文章の空欄では、順に複数形の可算名詞、名詞か名詞句、単数名詞が入ると推測できます。ここまで分かれば、選択肢に並ぶ単語の中から自動的に絞られてくるはず。かなりの確率で一つに絞られることもあるでしょう。以上を踏まえて、上記の空欄に入る単語を以下から選んでみましょう。

appeared, player, goal, held, stadium, champion, controversy, exciting, final, draw, journey, competition, teams, spectators

ここまでリーディングテストのコツを紹介してきましたが、これが得点アップにつながれば幸いです。また、参考書を使って勉強するのもいいですが、普段から多くの英文を読むように心がけてください。その際、できる限り IELTS に出題されそうなトピックを選ぶようにするといいでしょう。そして、新しい単語や単語のまとまりを見つけたら、それらを使って文章を作ってみましょう。そのように応用することで新しい単語もあなたのものになるのです。私からのアドバイスは今回で終わりです。皆さんの健闘をお祈りしております！
 答え：held, teams, competition, journey



世界が認める人材へ、
世界が認めるIELTSで

The test that opens doors around the world

- IELTS(アイエルツ・International English Language Testing System) は英語圏への留学や、移住を志す人のための英語運用能力試験
- 信頼性、公平性の高さからイギリス、オーストラリア、アメリカ、カナダ等の135の国と地域・6000以上の大学・政府機関・多国籍企業で採用、全世界で年間150万人が受験
- 日本では、札幌、仙台、東京、横浜、金沢、名古屋、京都、大阪、神戸、岡山、広島、福岡で開催
日本英語検定協会とブリティッシュ・カウンシルの共同運営により利便性が向上
- ペーパーベースで筆記は記述中心、スピーキング試験はネイティブスピーカーの試験官との1対1の面接形式
- 生きた英語を学び取れる、実際の場面に即した出題形式
- ブリティッシュ・カウンシルではIELTS試験対策コースを東京・横浜で開講 www.britishcouncil.or.jp

お問い合わせ・受験申し込みは(財)日本英語検定協会 IELTS事務所まで www.eiken.or.jp/ielts

BRITISH COUNCIL

財団法人 日本英語検定協会

(財)日本英語検定協会とブリティッシュ・カウンシルは、日本でのIELTSを共同運営しています。

This month's selection from The Japan Times

Woodford book chronicles story of Olympus coverup

Minoru Matsutani
STAFF WRITER

Last summer, Tsuyoshi Kikukawa, the CEO of Olympus Corp., instructed the firm's executives to keep then-President Michael C. Woodford from finding out about a magazine article that exposed the company's dubious transactions, according to Woodford in a recently published book he wrote.

In the Japanese-language book, *Kainin*, published by Hayakawa Publishing Corp. last month, Woodford describes in detail his battle with the camera and medical equipment maker's charismatic and unchallenged CEO and his board of yes men.

The Briton, ousted in October after confronting Kikukawa and board members about the company's dubious money transactions, is currently working on an English version of the book, which will be called *Exposure* and published by the end of the year.

The August issue of the magazine *Facta*, published July 20, revealed that Olympus had paid an unreasonably large amount of money to acquire three small Japanese companies as well as an unusually high mergers and acquisitions advisory fee to acquire a British company.

Woodford was in Hamburg, Germany, when a friend emailed him to ask if he had seen the *Facta* article. He did not know the contents of the article when he returned to Japan on July 28 to attend a board meeting. He had been hoping the article would be discussed, but it never came up, he writes.

The following weekend, a friend translated the article for him.

"I froze with shock," writes Woodford, who spent 30 years with Olympus. "You cannot write this article without insider information. ... I cannot ignore this. I am the president. I am in a position to sign financial statements and auditory reports."

Facta had sent a questionnaire and a notification of the planned article to Olympus before it was published, but Woodford saw the letter for the first time on the *Facta* website.

"It would be impossible that Kikukawa and other board members hadn't known (about the article.) What was that peaceful board meeting about?" Woodford writes.

On Aug. 1, he confronted two of his more trusted subordinates, holding up the magazine and asking if they had read it. They had, but Ki-

kukawa had told them not to tell him of the article.

Confronting Kikukawa and Executive Vice President Hisashi Mori, who was in charge of financial affairs, the same day, Woodford quotes Kikukawa as saying, "I told other board members to make sure you don't hear" about the article.

"You are busy being the president," Kikukawa is quoted as saying. "I didn't want to trouble you with such a trivial domestic problem."

According to Woodford, Kikukawa also told him that the article was "partially" accurate, but that it was typical of Japanese media to write sensational articles. He added that no Japanese shareholders had complained.

Doubtful of Kikukawa's explanation, Woodford writes he was determined to collect evidence that would shed light on the claims.

The dubious transactions included the advisory fee for acquiring Britain-based medical equipment maker Gyrus Group and the acquisitions of three Japanese companies that had little to do with Olympus' main businesses — endoscopes and cameras.

For the advisory fee in the 2008 Gyrus deal, Olympus paid Cayman Islands-based M&A advisor Axes America ¥66 billion — 35 percent of what Olympus paid to acquire the company. Royalties for an M&A adviser are typically about 1 percent of the acquisition cost.

Also, Olympus paid about ¥73.4 billion to purchase three Japanese companies from 2006 to 2008, and wrote off ¥55.8 billion, or 76 percent of the purchase price, in losses due to a decline in value of the three companies' shares in March 2009.

One of the three companies recycles medical equipment, another makes plastic plates that can be used to heat food in microwave ovens and the other is a cosmetics maker.

In September and October, Woodford sent six letters to Olympus board members and accounting firms, seeking the reasons for investing in the three Japanese companies and asking for due diligence reports on the acquisitions, the reasons for paying the \$700 million advisory fee in the Gyrus Group deal and information on why Olympus switched accounting firms from KPMG to Ernst & Young.

Mori replied to Woodford several times, but never answered his questions, Woodford writes. Mori's re-



Michael Woodford

KYODO

plies consistently reaffirmed his belief that the past decisions were made during board meetings after thorough deliberations.

On Sept. 28, after Woodford sent his fifth letter, he had a meeting with Kikukawa and Mori. He asked them to relieve Kikukawa of the CEO post and let him hold that position in addition to the presidential post so he could investigate the dubious transactions with more authority.

After much rancor, Kikukawa agreed to the shift, with Woodford's promotion to president and CEO approved at a Sept. 30 board meeting. Board members, however, took a hostile stance toward him, with one criticizing him for sending letters to Ernst & Young.

"Then I realized my new title is effectively meaningless. Kikukawa has no intention to give up his power," Woodford writes. "I was completely isolated."

He asked PricewaterhouseCoopers (PwC) to review the transactions and was given a report on Oct. 11.

"The report was shocking but within anticipation," Woodford writes. It mentioned possible illegal acts of Olympus board members and noted that prosecutors and financial authorities could begin investigations.

He then wrote a sixth letter to Kikukawa, Mori, other board members and Ernst & Young executives.

"It is clear that the current situation is now untenable and to move forward positively the necessary course of action is for you both (Kikukawa and Mori) to tender your resignations from the board. This approach would allow the situation

to be managed in a discreet manner and minimize the damage to the reputations of Olympus and yourselves," Woodford said in the letter.

On Oct. 14, Olympus dismissed Woodford as president and CEO because of "his selfish management style," a rationale that Olympus has never deviated from.

Woodford then gave all the information he had to a reporter with the *Financial Times*, which published the stories on its front page on Oct. 15 and 16.

"I didn't think of tipping off Japanese media or investigative authorities because they have ignored a series of *Facta* articles," Woodford writes.

In November, Olympus admitted using the dubious transactions to hide losses in stock investments it made in the early 1990s. Prosecutors arrested and indicted Kikukawa, Mori and others in February and March.

Woodford announced his resignation from the Olympus board on Nov. 30 and tried to persuade Japanese shareholders to let him lead the firm again.

However, Sumitomo Mitsui Banking Corp. President Tsuyoshi Kunibe and other shareholders refused to meet him, forcing him to give up his proxy fight to challenge the current management in January.

Unemployed, Woodford has sued Olympus in a British court for unlawful firing. He is also a defendant, along with Kikukawa and others, in a civil trial in which U.S. shareholders are demanding compensation for the sharp drop in Olympus shares.